

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2016.2.25 No. 255 連絡先 FAX 042-555-1911



F-35関連予算の支出先契約額 IHIは2013年度と2014年度で426億円



「ゲート設置に要する費用については、米側負担」と、防衛省からの情報（No. 254 参照）に書いてありますが、2016年度の防衛省の予算案には、IHIに21億円予算が計上されていました。ところが

衆院予算委員会で共産党の本村伸子議員の質問を報じた2月19日の赤旗紙によると、IHIに2013年度182億円、2014年度244億円と、2年間で426億円の防衛費が注ぎ込まれていることが分かりました。IHIのエンジン工場は私たちの税金で建設されたようです。とんでもない事です。

F-35ステルス戦闘機 自衛隊は42機導入 これまで22機分で6165億円

年次	契約額	機数	金額
2012年度	600億円	4機	395億円
2013年度	1332億円	2機	299億円
2014年度	1443億円	4機	638億円
2015年度	1399億円	6機	1032億円
2016年度	1391億円	6機	1084億円
合計	6165億円	22機	3448億円

日本政府は自衛隊の次期戦闘機としてF-35ステルス戦闘機を米国から42機導入します。2016年度までの5年間で22機分を契約あるいは計上して、その総額は、およそ3448億円に上ります。（この金額は防衛省の予算書によります。F-35の1機当たりの単価は、2012年度は約98億円。2016年度は約180億円です。）

訪日中のハリス米太平洋軍司令官 2月17日 日米同盟を語る

2月17日、訪日中の米太平洋軍司令官ハリー・B・ハリス海軍大將は、安倍首相と会い、「今般の北朝鮮情勢をめぐり、平和安全法制及び新ガイドラインにより強化された日米同盟の下で、両国の緊密な連携が行われたことを評価する」と語りました。

中谷防衛大臣 2月23日 航空自衛隊横田基地の部隊及び訓練視察

防衛省のホームページに、防衛大臣が2月23日、横田基地を視察する、と予定が出ていましたが、23日当日13時30分頃、ヘリコプターで横田基地に到着したそうです。視察に先立つ防衛大臣の記者会見では「航空総隊司令官、また、在日米軍司令官のドーラン司令官とお会いする」と語っています。（防衛省HPに掲載）

2月21日横田座り込み139名参加 豚汁・甘酒も大好評 沖縄の座り込みの歌で盛り上がる



ベトナム戦争を支援した兵站基地としての役割 そのまま横田に (No. 255 裏面)



ベトナム戦争時に始まった横田、米国本土、東南アジア間の戦略的な旅客貨物の空輸は、横田基地の長期に渡る重要な任務となりました。ベトナム戦争が終わり、戦闘機部隊は横田基地を去りましたが、ベトナム

戦争を支援する兵站基地としての役割がそのまま今日在る横田基地の姿の原型になりました。

米軍の航空輸送戦略の一翼を担う機能は横田基地の歴史の中で最も長く続いています。(写真: 2月15日、アラスカ州エルメンドルフ・リチャードソン統合基地の大型輸送機 C-17A、隊長機)

兵站とは何でしょうか。アメリカ陸軍の教範は兵站=Logistics を次のように位置づけています。

「軍の移動および継戦能力の維持を計画・実行する過程、装備品の計画・開発・取得・貯蔵・移動・配分・整備・後送・廃棄、役務の調達・提供、施設の計画・取得・建設・整備・運用・配置等を含む、戦術レベルでは装備の補給・修理・給油・人員配置・移動・給養・継戦能力維持等の後方支援(Combat Service Support)に重点」。すなわち、全般的には「戦闘行為以外すべてを担当する役目」をさし、戦術レベルにおいては「継戦能力を維持する行為 = 後方支援である」としています。戦闘力の維持には、部隊を構成する人員の生活物資(水、食料、衣服等)。そして運用する兵器の修理・補修・使用する物資・弾薬・燃料の補給がかかせないのです。

KC-10 大型空中給油機 2月22日には7機に

2月21日の夕方から20時18分までに次々と6機のKC-10大型空中給油機が着陸しました。写真は22日撮影。一番左は21日夜着陸したC-17A(AK)。KC-10は左から5機はカリフォルニア州トラビス基地所属、右はニュージャージー州マクガイア基地所属で計6機です。21時過ぎに7機目のKC-10が着陸。ニュージャージー州マクガイア基地所属です。



F-22など外来機相次ぐ嘉手納基地 嘉手納町・北谷町議会が抗議決議

北谷町議会は2月16日の臨時議会で、米アラスカ州米軍基地所属の最新鋭ステルス戦闘機F-22とF-16戦闘機計26機が、米軍嘉手納基地へ暫定配備されたことについて、外来機飛来・暫定配備・訓練に抗議し、即時撤去を求める抗議決議と、意見書を全会一致で可決しました。抗議決議と意見書は、両機種のほかにも、同基地にはAV8BハリヤーやFA-18など、約40機の外来機が飛来していることを挙げ「1970年代のベトナム戦争期以来の規模」と指摘。「米軍再編協議における負担軽減とはほど遠い状況」として、日米両政府の対応を批判しています。

嘉手納町議会は2月9日、臨時会を開き、嘉手納基地への外来機の暫定配備中止や騒音防止協定順守などを求めた意見書と抗議決議を全会一致で可決しました。意見書では、嘉手納基地は常駐機と多くの外来機が混在する危険な状況だと指摘。町民は航空機による100デシベルを超える騒音と排出ガスによる悪臭被害、事故への不安と恐怖に悩まされているとし、「もはや人間として生活する環境は破壊され、精神状態は限界に達している」と訴えています。議長らは沖縄防衛局を訪れ、配備中止などを要請。